

人事のためのスキル向上

仕事塾

～効率的・効果的な仕事の仕方～

財務の基礎

第8回 (最終回) 投資と財務のキャッシュフローと分析

平井会計事務所
税理士 平井 満広

今回は「キャッシュフロー計算書(以下、C/F)の概要」と「営業CF」について説明した。最終回となる今回は「投資CF」「財務CF」と「C/Fの数字の見方」について解説する。

● 投資活動によるキャッシュフロー

投資活動によるキャッシュフロー(投資CF)は、資産の投資によって生じた資金の増減を把握する欄である。投資活動に含まれる取引には次のようなものがある。なお営業CFと投資CFの合計を「フリーキャッシュフロー(会社が自由に使える資金)」と呼ぶ。

「有価証券の売買」……株式や債券等の売買額。購入した場合は「有価証券の取得による支出」としてマイナス(△)で計上し、売却した場合は「有価証券の売却による収入」としてプラスで計上する。なお損益計算書と異なり「売買損益(買った金額と売った金額の差額)」は記載しない。

「有形固定資産の売買」……土地や建物、機械装置等の売買額。購入した場合は「有形固定資産の取得による支出」として購入額全額をマイナス(△)で計上する。損益計算書の減価償却費のように按分計算はしない。売却した場合は「有形固定資産の売却による収入」としてプラスで計上する。ソフトウェアや商標権のような「無形固定資産の売買」は別科目で計上することが多い。

「貸付金の支出・回収」……関係会社や役員等に対する金銭の貸し付けや回収の額。金銭を貸し付けた場合は「貸付による支出」としてマイナス(△)で計上し、貸し付けを回収した場合は「貸付金の回収額」としてプラスで計上する。

「定期預金の預け入れ・払い戻し」……満期日が3カ月を超える定期預金はキャッシュフロー計算書の資金(現金及び現金同等物)に含まない。こうした定期預金に預け入れた場合は「定期預金の預入による支出」としてマイナス(△)で計上し、払い戻した場合は「定期預金の払戻による収入」としてプラスで計上する。

● 財務活動によるキャッシュフロー

財務活動によるキャッシュフロー(財務CF)は、資金の調達・返済や株主への配当による資金の増減を把握する欄である。財務活動に含まれる取引には次のようなものがある。

「借入・返済」……金融機関から融資を受けた金額やその返済額。借り入れた場合は「借入による収入」としてプラスで計上し、返済した場合は「借入金の返済による支出」としてマイナス(△)で計上する(ただし金利相当額は営業CFに計上)。

「設立・増資」……株主から払い込まれた金額。「株式の発行による収入」としてプラスで計上する。

「配当」……株主に対して配当金として支払った

法人企業統計調査によると、2017年度の法人企業全体の経常利益は前年度比11.4%増の83.6兆円となり、5年連続で過去最高額を更新した。一方、企業が生み出した付加価値額に占める人件費の割合(労働分配率)は66.2%と、5年前に比べてマイナス6.1ポイントと低下している。

本連載では「働く人への成果の分配」を実現するためのヒントとなる、財務会計の基礎について紹介する。

額。「配当金の支払額」としてマイナス(△)で計上する。

「自社株」……自社株を購入して支払った額。「自己株式の取得による支出」としてマイナス(△)で計上する。

● キャッシュフロー計算書の数字の見方

安定経営を実現するためには、キャッシュインフロー(資金流入)がキャッシュアウトフロー(資金流出)を上回ることが、基本的に望ましい。ただし「営業CF」「投資CF」「財務CF」のすべてがプラスならよい、というわけでもない。そこでC/Fの数字の見方を主なタイプ別に説明する(図)。

Aタイプ(バランス型)

「本業で稼いだ資金」で「設備等への投資」や「銀行等への返済」を賄っている状態。一般的にキャッシュフローのバランスがよい会社といわれる。

Bタイプ(アグレッシブ型)

「本業で稼いだ資金」と「銀行等からの借入」に「手持ち資金」も加えて「設備等への投資」にまわしている状態である。過剰投資の可能性があるので翌期以降のキャッシュフローに注意が必要。

Cタイプ(かき集め型)

「本業で稼いだ資金」があるにもかかわらず「保有資産の売却」と「銀行等からの借入」でさらに資金をかき集めた状態。将来の大型投資等に向けて準備しているのかもしれない。

Dタイプ(過剰債務型)

「本業で稼いだ資金」と「保有資産の売却」でも賄えないほど「銀行等への返済」の負担が大きい状態。過去の設備投資や赤字補てんで過剰債務になっている可能性がある。借り換えやリスキューを検討するのもひとつ。

Eタイプ(借入依存型)

「銀行等からの借入」で「本業の赤字」と「設備等への投資」を賄っている状態である。中小企業によく見られるタイプ。銀行等の融資姿勢が変わる(貸し渋り、貸し剥がし等)と一転、資金繰りに行き詰まる。

図 キャッシュフロー計算書の数字の見方

| | | | |
|---------------|------|------|------|
| Aタイプ(バランス型) | | | |
| プラス | 営業CF | | |
| マイナス | 投資CF | 財務CF | |
| Bタイプ(アグレッシブ型) | | | |
| プラス | 営業CF | 財務CF | |
| マイナス | 投資CF | | |
| Cタイプ(かき集め型) | | | |
| プラス | 営業CF | 投資CF | 財務CF |
| マイナス | | | |
| Dタイプ(過剰債務型) | | | |
| プラス | 営業CF | 投資CF | |
| マイナス | 財務CF | | |
| Eタイプ(借入依存型) | | | |
| プラス | 財務CF | | |
| マイナス | 営業CF | 投資CF | |
| Fタイプ(切り崩し型) | | | |
| プラス | 投資CF | | |
| マイナス | 営業CF | 財務CF | |
| Gタイプ(赤字垂れ流し型) | | | |
| プラス | 投資CF | 財務CF | |
| マイナス | 営業CF | | |

Fタイプ(切り崩し型)

「保有資産の売却」で捻出した資金で「本業の赤字」と「銀行等への返済」を賄っている状態。一時しのぎに過ぎないので、本業の収支改善や銀行等からの資金調達が急務。

Gタイプ(赤字垂れ流し型)

「保有資産の売却」や「銀行等からの借入」でも穴埋めできないくらいの巨額な「本業の赤字」を抱えた状態。本業の収支改善がなければ、倒産するのは時間の問題である。

PROFILE

平井満広(ひらい・みつひろ)

税理士。1975年埼玉生まれ。山口・群馬・東京育ち。98年日本大学文理学部心理学科卒業。中央霊馬ピーアールセンター(JRA外部団体)、落合会計事務所、KCCSマネジメントコンサルティング(アメリカ経営 京セラグループ)勤務後、08年に独立開業。「会計を通じて人を幸せにする」をモットーに、中小企業向けの業績改善・経営指導に力を入れている。